

マンガでわかる！ 国土管理

～**カンタ**と**リコ**の訪問記

し ぼ た

新潟県新発田市編



国土交通省国土政策局
総合計画課国土管理企画室

～主人公の紹介～

- ・ カンタのアツすぎる思いに共感し、そのあとを追いかけて始めたピュアな少女。
- ・ 知識はまだ少ないが、時折鋭い質問が飛び出すことも。

- ・ 日本の美しい国土を未来に残していきたいという思いを抱く、大志ある少年。
- ・ 全国各地の事例を自分で勉強していて詳しい。
- ・ マンガの登場人物と既に知り合いであることも。

リコ



カンタ

かみさんこう
 今度、上三光集落で農業体験イベントがあるんだけど、参加してみる？
 現場の話がたくさん聞けると思うよ。

ぜび！！

どんな風に使われて
 いるんだろう。

かみさんこう せいりゅう かい
 上三光清流の会代表の小柳です。カンタ君、リコちゃん、今日は遠くから参加いただきありがとうございます。

後日・・・

はじめまして！

あ、あそこにある電気柵、この地図の黄色い線と同じ形をしています！

Geographic...地理
 Information...情報
 System...システム

事前に色々勉強してくれましたね。あの地図は、GISを使って作っているんですよ。

じいあいえす??

色んなデータを地図上に重ね合わせて表示するためのシステムです。

2



しばた かみさんこう
 新潟県新発田市の上三光という集落の人たちが作ったものなんだよ。

ねえねえ、この地図は何？ 農地が色分けされているね。あの黄色い線は何だろう。

1

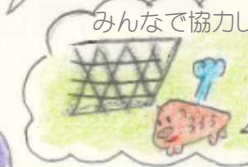


そうです。
集落のみんなが協力し合う必要があります。
だからこそ、みんなの合意を得るのが
難しいんです。

人手がたくさん
必要そうな対策ばかり
ですね。

みんなで協力しないと...

Aさんの
土地が狙
い目だぜ!



そのとおりです。
地域資源の活用と
両立させた、楽しい
交流イベントも
生まれてきていますよ。

みんなが地域の現状
を知ったからこそ、
合意形成できた
ということ
ですよね。

がんばろう!



②柿酢づくり 体験

えー。持ってっ
ちゃうの?

落ちてる柿は
全部もって
いきま〜す。



柿酢として
活用しよう!



①電気柵見学ツアー

そっち行けない



あ! イノシシが
困ってる。

電気柵って、
カッコイイ!

里山に人の声
するのが大事
なんだね。



野生鳥獣への対策に、
こうした力が大きく発揮
されました。

集落全体で支え合う力が
強くなりそうですね!



イノシシ サル
住民

MSU (Municipal Support Unit)

①電気柵の 設置

中に入れない...



専門家のアドバイスも
もらいながら、色んな
対策を検討しました。

どんな対策を
検討したん
ですか?



③放置された 果樹の伐採

〈対策前〉

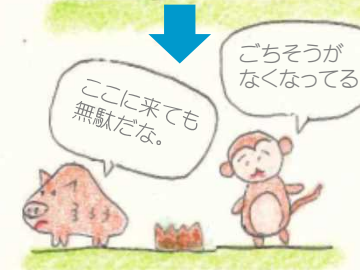
あ、柿だ!
美味しそう♥



〈対策後〉

ここに来ても
無駄だな。

ごちそうが
なくなってる!



②荒廃農地の再生

〈対策前〉



絶好の隠れ家
だな♥

〈対策後〉

山に戻ろう。

わあ。
ボクたち
目立ちまくり
じゃん。

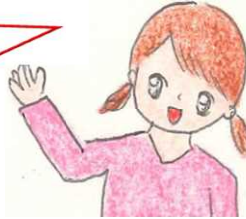


取組事例に学ぶ課題と解決の方向性①

人（主体）の視点①

「地域の営業マン」として外部への働きかけを精力的に仕掛ける人や、こうした取組が地元との軋轢（あつれき）を産まないよう円滑に進めていくための調整役など、多様な人材がそれぞれの役割を果たし、リーダーシップを発揮していくことが重要です。

新潟県新発田市上三光集落では、対外的な情報発信を行う小柳氏をはじめ、集落内での調整、会計など、適材適所で多様な人材がそれぞれの役割を果たしています。また、人脈を活用した外部スタッフの協力も得ています。



人（主体）の視点②

活動の中核となる組織を設立することで、中心人物の引退等があっても、組織内の世代交代によって取組の持続性を高めることにつながります。

新潟県新発田市上三光集落では、地域の取組を進めるに当たり、取組の持続性と機動性を確保するため、地域住民で構成する別組織として「上三光清流の会」を立ち上げました。



人（主体）の視点③

一般的に、様々な視点からの効果を期待するような取組については、分野ごとの専門家による技術的な知見や支援が必要となります。その際、地域には退職者を含め、重機の免許を有する、土地・不動産制度に詳しいなど、様々な知識や技術を有する者がいることもあり、こうした人材を巻き込むことも重要です。

新潟県新発田市上三光集落では、GISの導入に当たり、地域内の建設会社出身者の知見を活用しました。また、鳥獣被害対策の検討に際しては、集落として専門家を招き、対策を検討しています。



取組事例に学ぶ課題と解決の方向性②

人（主体）の視点④

農村での自然体験などの交流活動は、地域外住民などの外部の関係主体の意識の向上につながるほか、外部から見た地域資源の価値を地域住民が再認識する良い機会となります。

新潟県新発田市上三光集落では、農業体験交流を住民意識の向上・維持にもつなげました。



土地の視点①

客観的には大規模とは言えない地域資源であっても、無理のない形で上手に活用することが有効です。特に、地域資源として活用できる自然環境を把握し、共有するための調査を行うことも有効な手段です。

新潟県新発田市上三光集落では、集落環境診断を通じ、鳥獣被害の実態を地域住民で把握・共有するとともに、診断でのワークショップを通じて里山や川に関する地域住民の意識向上を図りました。また、地域の資源や農業文化を活用して、農村と都市の交流を促進しました。



土地の視点②

GISも活用しつつ、土地の現状や課題、地域の資源を地域の内外で共有し、誰もが簡単に把握できるよう「見える化」することが重要です。課題や資源を分析し、認識を共有することで、地域外住民も含めた「共助」の基盤となり、地域が一体となった取組につながります。

新潟県新発田市上三光集落では、GISを活用して農地の所有者や耕作者などの情報を集落住民の間で共有したことにより、住民が土地に関する課題も含めて把握することができました。放棄されている土地を共同管理する土地利用計画もできました。



仕組みの視点

人口減少下の状況で、長期的な人手不足に対応するためには、担い手の確保と併せ、土地の管理の省力化・合理化も重要な要素であり、GISやクラウドサービスを活用した情報の整理・共有など、ICT（情報通信技術）の活用が有効な場合があります。

新潟県新発田市上三光集落では、GISを活用して集落住民間で課題を共有しています。情報が可視化されることで、世代間の情報格差の改善にもつながりました。



参考情報

上三光清流の会では、Facebookページを開設しています。こちらもぜひご覧ください！
<https://ja-jp.facebook.com/kamisanko/>

